

GATE★BOOK

号外

10代におくる新着ブックガイド。

2012年7月発行

職場体験実習生 おススメ本

10代のみなさん、こんにちは。

今回の『GATE BOOK』は、職場体験にきてくれた

山形市立第一中学校と山形市立第三中学校の皆さんからの紹介です！！

同年代のおすすめする本を是非読んでみてください

山形県立図書館

山形県緑町1丁目2-36

電話 023-631-2523

FAX 023-632-9358

HP <http://www.lib.pref.yamagata.jp/>

携帯HP



『原爆投下 黙殺された極秘情報』

松木秀文 / 著 NHK 出版 210.75/㉞

この本は、長崎、広島原爆が投下される前後の状況や、広島の人々の心境が書かれている本です。

太平洋戦争や第二次世界大戦に終わりを告げる広島・長崎への原爆投下・・・

原爆投下で放たれた放射線、熱風による被害、そして原爆投下直後に行ったある人の、放射能被害による悲痛な心の叫び「自分は原爆投下のとき広島にはいなかったのに・・・」をまとめた本です。

原爆や水爆への恐ろしさ、そして原爆投下の罪を改めて知ることのできる本です。

『日本人はなぜ戦争へと向かったのか 戦中編』

NHK 取材班 / 編著 NHK 出版 210.75/㉞

この本は太平洋戦争末期の日本の状況を切実に伝える作品です。日米開戦により資源に追い詰められた日本、その時とった策は。そして、太平洋戦争から学ぶことのできる教訓、残された兵士たちの実際の証言を「NHKスペシャル」の8月15日に放送されたものに調査データ、研究者へのインタビュー、論考などを加えた本です。

戦争の無残を思い知らされる一冊です。

『書の道を行こう 夢をかなえる双雲哲学』

武田双雲 / 著 PHP 研究所 Z728.21/㉞

この本は、25歳の男性が、サラリーマンから、書道家として独立し、**自分の力だけで生きていく**といったいい本です。中身は、**夢をあきらめなければ、生きていける**といったいい話で、この本の最初と最後には武田双雲さんが、筆で書いた文もあるのでぜひ読んでください。

『デモナータ 1幕 ロード・ロス』

ダレン・シャン / 著 小学館 Z933.7/㉞/1

この物語は、主人公グラブスの家族が亡くなってしまいます。しかも、家族を殺したのは、ロード・ロス、アーテリー、ベインという悪魔だった！！デモナータシリーズは全部で10巻あります。一番最後の10巻では、**まったく予想できなかった結末がまっています。**

『パーティミアス 1 サマルカンドの秘宝』

ジョナサン・ストラウド / 作 理論社 Z933.7/㉞

この本は、ロンドンを舞台にした本です。主人公は、「十二歳の魔術師の卵・ナサニエル」、「中級レベルの魔神・パーティミアス」です。この本のあらすじは、ナサニエルがパーティミアスを召喚し、自分をはずかしめたエリート魔術師に復讐をするという物語です。外伝をあわせて五巻あるので、**ぜひ読んでください。**

『不思議の国のアリス』

ルイス・キャロル / 著 メディアファクトリー 933.6/㉞

この本はアリスという少女が不思議な世界を冒険するという物語です。服を着ていて言葉を話すウサギや、にやにやしながらとつぜん現れて、とつぜん消えてしまうネコなど、**へんてこな動物がたくさん**でてきます。読んでみると自分まで不思議の国に迷い込んだような気分になる一冊です。

『たまゆらり』

高橋克彦 / 著 実業之日本社 913.6/効

おふくろが入院のなか、なぜか聞こえる水道の水が落ちる音。そのあとも手だけが主人公におそいかかるといふ変な状態がつづく。主人公が出張から帰ってきたら「風呂でおぼれ死んでいた」その時あの水音は、浴室から聞こえていたものだったと主人公は理解した。

この後も、このミステリーに挑むサスペンス・ホラー。

『大和魂』

田中マルクス闘莉王 / 著 幻冬舎 783.47/効

2010年の南アフリカワールドカップの時闘莉王の父は突然心臓の病気になって入院してしまっただけで、闘莉王は父のことが心配だったそうだ。と書いており、その時闘莉王の父から伝言があった。

「お前はブラジルに帰ってくるな。南アフリカに残って日本のために戦うんだ」という伝言だ。「日本のために戦う」この言葉は大和魂だと僕は思いました。この大和魂という本は、田中マルクス闘莉王はもちろん、サッカー日本代表の大和魂がかかれています。ぜひ読んでみてください。

『わたしの失敗 2 著名40人の体験談』

産経新聞文化部 / 編著 産経新聞出版 281.04/効/2

いくら有名人であっても失敗はあります。松岡修造さんは、「勝てるかもしれない」その気持ちの緩みが、かんぺきにとらえたボールをはずしてしまい、敗北につながったのです。しかし、このことから、失敗することの大切さを知り、子供は何回失敗してもいい、という特権を持っていて、失敗は、多いほど成長するといっています。他の有名人の方々も失敗を語っていますが、この修造さんのことばをみると成長するためのカギが見つけれられるかもしれません。

『松岡修造の人生を強く生きる 83 の言葉 弱い自分に負けないために』

松岡修造 / 著 アスコム 159/マツ

松岡修造さんといえば、みなさんには熱い人のイメージが、わいてくるかと思います。が実は、心が弱く消極的でした。しかし、この本の言葉で強く積極的になりました。このことばで、あなたも積極的に、熱く、強くなってみませんか？この83という数多くの言葉にふれて心を強くしましょう！

なので、この本をぜひ読んでください

『ライヴ 角川文庫』

山田悠介 / 著 角川書店 913.6/マツ

感染したら死に至る奇病ドゥーム・ウィルス。日本にそれが蔓延するなか、あるはずのない特效薬がもらえるといううわさがネットで広がる。感染した母をもつ田村直人は、半信半疑で集合場所へ行くが、薬はトリアスロンを完走しなければもらえないという。スタート地点から生放送、ライブされるレース、残酷なトラップに脱落していく選手たち、直人は母を救うため完走することができるのだろうか！？

この本は、独特の山田ワールドに、スピード感が+された、読んでいてとてもドキドキする作品です。一人ひとりに守るべきもの、救うべきものがあり、それに対する、直人やその他のキャラクターの考え方、感情に感動したり、すごいなあと感心したりする場面も多々あります。また+されたスピード感には物語を現実のように読者をグイグイ引きこんでいきます。

盛り上がるこの作品、みなさんもぜひ読んでみてください。

『レンタル・チルドレン』

山田悠介 / 著 幻冬舎 913.6/77

最愛の息子、優を亡くした里谷泰史は、そのショックに立ち直りきれない妻冬美を心配する。そんな冬美に元気になってもらおうと友人から「P・I（プレジャー・インビテーション）」という会社の子供をレンタルするシステム「レンタル・チルドレン」を利用しようと考えた。そうしたら死んだ息子・優にそっくりな子を見つける。迷わずその子を手に入れた2人の悲しい運命とは・・・。

この本は山田悠介が最も得意とするタイプの物語で、ジワリジワリとくるこの恐怖、恐いのを読んでしまうという、とても先の気になる作品となっています。このくせになる表現・最後の最後までおもしろいエピローグ、他の作品にはあまりない絆などを感じる場面もあり、読みごたえバッチリです。

ホラー系の小説の好きな人は一度読んでみてください。本当にハマります。

『ギフト』

日明恩 / 著 双葉社 913.6/74

この本は、ある不思議な能力をもった少年と、心に大きな傷があるもと刑事の須賀原が出会い、少しずつ成長していく物語です。

「その少年に目が留まった理由は、ただ一つだった。こぼれ落ちる涙をぬぐおうともせず、立ちつくしていたからだ。それもホラー映画の並ぶ棚の前で。」

とても心があたたまるエピソードがたくさん入った一冊です。

『ラグビーガールズ 楕円球に恋して』

松瀬学 / 著 小学館 783.48/77

ぼくも小学校からラグビーを始めました。初めは男のやるスポーツだとずっと思っていたのですが、本の題名でもあるように、女子ラグビーがあるということに驚きました。そして本でぼくはこの言葉に共感できるなと思いました。「ラグビーはみんなが活躍できるスポーツなんだ。チームメイトがこまっていたらみんなで助けてあげよう。ひとりがボールをもったらみんなについていこう。トライも大事だけど、トライにつなげるアシストはもっと大事なだよ」

この本でラグビーの楽しさがわかると思います。ぜひ読んでみてください。

『常識として知っておきたいこれって、同じモノ？違うモノ？』

博学こだわり倶楽部 / 編 河出書房新社 049/17

身近にあるもの・・・。例えばおにぎり。たまにおむすびとよんでいる人がいませんか？このおむすびとおにぎりの違いがあります。大きく握ったものをおむすび、小さく握ったものをおにぎりといいます。

もう一つの例を紹介します。それはニュースと報道。ニュースは最近発生した国内外の政治・経済・事故・事件・スポーツ・気象情報などの出来事を広く伝えること。報道は、国内外の政治・経済・事故・事件・スポーツ・気象情報取材し、記事や番組、本や雑誌を作製して広く公表、伝達する行為である。などとたくさんの違いが書いてあります。

ぜひ読んでください。